

先進校に学ぶキャリア教育の実践1

学習意欲、人間関係、自己管理能力… 人生を歩んでいく“基礎体力”を育む

— 北海道・道立 札幌白陵高校 —

札幌白陵高校には1、2年次は週2回、3年次は週1回、キャリア教育の授業があります。その中で生徒たちは、「学ぶことの意味」について考えたり、焼きそばの商品アイデアを競ったり、ゲーム形式の交流会で人間関係を広げたり…、実にさまざまな取り組みを行っています。それは生徒の成績、就職内定状況、教員の授業方法などに良い影響をもたらし始めているようです。

取材・文／藤崎雅子

実践のKeyword

🔍 総合的な学習の時間 🔍 産業社会と人間 🔍 ライフプラン作成 🔍 インターンシップ
🔍 手帳システム 🔍 ポートフォリオ 🔍 プレゼンテーション

喫煙ゼロの達成で 学校が変わり始めた

札幌市の郊外にある札幌白陵高校は、数年前まで課題の多い学校として知られていた。校内にはタバコの吸い殻が目につき、授業中に廊下を歩くと生徒の姿も中学までの学習で遅れをとった層を受け入れ「学び直し」に力を入れてきたが、入学者は定員割れ。中途退学者も少なくない状況だった。

そんな同校が06年度、学校改革に立ち上がった。北海道では11年度に高校入学者数が大幅に減少すると予測され、このままでは生き残れないとの危機感からだ。校内にみらい委員会を組織し、今後の同校のあり方について検討が進められた。

最初に着手したのは、生徒の喫煙ゼロに向けた対策だ。長年努力してきたものの全廃は困難と思われていたが、教員の強い意志をもった指導により、わずか8日間で校内からタバコが消えた。「こちらがきちんと要求すれば生徒は応えてくれる」。そこから学校改革の歯車が回り始めた。約5年間の準備期間を経て、11年度より単位制となり、教員の目が行き届きやすい規模となつて再出発した同校。生徒の行動・態度は落ち着いて退学者は減り、定員を上回る入学志願者が集まるようになった。校長の片岡晃先生は同校の役割を重くみている。

「学力の底辺層を押し上げることが、全体の水準を上げること。われわれが生徒

に力をつけて卒業させられるか、北海道の若者の底上げのためにも非常に重要な役割を担っていると感じます」(片岡校長)

生き残りをかけた 学校改革が生んだ3つの特徴

現在の札幌白陵高校には3つの大きな特徴がある。

その1つは同校オリジナルの「3モード学習」だ。従来から「学び直しができる」学校として中学の学習内容から丁寧な指導を行ってきたが、それが逆に学力の高い生徒の学習意欲に応えにくい状況を招

図1 3モード授業の進み方(国語の例)

	1年次				2年次				3年次			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
ベーシック	国語基礎I				国語総合				国語表現		現代文読解	
スタンダード	国語基礎I		国語総合		国語表現		現代文B					
アドバンス	国語基礎I		国語総合		現代文B				古典A			

→ 中学内容の復習 (1年次1-4) → 高校生の基礎力定着 (2年次1-4) → 応用・活用する (3年次1-4)



School Data

普通科・単位制 / 1996年創立
 / 生徒数 448人(男子215人・女子233人)
 進路状況(2012年度実績) 大学9.8%・短大5.2%・専門学校27.2%・就職32.9%・その他24.9%
 北海道札幌市白石区東米里2062-10
 TEL 011-871-5500
 URL <http://www.hakuryo.hokkaido-c.ed.jp/>

Outline

2011年度より単位制。大学進学に向けた科目や資格取得を目指す科目などを用意し、幅広い進路希望に対応できる体制を整備。同時に、国語・数学・英語は各自の学力や希望進路に合わせて学ぶテンポを選べる「3モード学習」を導入。また、産業社会と人間、総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育のプログラムもスタートさせた。資格取得やボランティア活動にも力を入れている。

図2 キャリア教育の成長シナリオと活動内容(2013年度)

★A～Fは次ページに詳細

	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
1年次	C 学ぶこと・学ぶ喜び・学び方を学ぶ ・オリエンテーション ・宿泊研修(「私たちが学ぶ理由」プロジェクト) ★A ・学問分野調べ ・奨学金について ・科目選択ガイダンス	働くこと・働く喜びを理解する ・働くこととあわせの関係 日本理化学工業、三國清三、TDR 働く意味 ※命を考えるWeek(ケータイ)	世の中のしくみを理解する ・「ステキな会社調べ」プロジェクト ★B 北海道のステキな会社 ステキな会社調べ ステキな会社プレゼン大会	ライフプランの作成 ・インターシップ報告会 ・進路体験交流会 ・「マイ・ライフプラン」プロジェクト ★C ライフプラン作成、発表 ◆進路ガイダンス
	C S 高校生活を始めよう ・高校生活を始めよう ・手帳システム導入指導 ★F ・友だち100人プロジェクト(異業種交流体験) ★E ・1年次目標設定 ・個別面談	PPFをつくる ・パーソナルポートフォリオ作成指導 ・Q-U、エゴグラム、進路諸検査 ・自己分析 ・個別面談 ※命を考えるWeek(薬乱防止)	挨拶・敬語・礼儀・作法 ・正しい挨拶 ・敬語を使いこなす ・社会で必要となるマナー ・大人のルール ・個別面談	人間関係と言葉遣い ・傾聴力をあげる ・コーチングを学ぶ ・力づける言葉、傷つける言葉 ・ピアサポート ・個別面談
2年次	C G 企画力を磨く ・「白-1グランプリ」プロジェクト ★D ヒット商品を分析しよう 発想力を高めよう ・科目選択ガイダンス	キャリアを考える ・「株式売買ゲーム」プロジェクト 仕事の見方 仕事を適職にする方法 ・進路ガイダンス ※命を考えるWeek(思春期ヘルスケア)	決意を固める ・「Money Connection」プロジェクト 人生とお金の関係 ・進路スケジュールを確認する ・進路決定までのハードルを知る ◆インターシップ	将来設計を立てる ・求人票の見方 ・履歴書・調査書の意味 ・アクションシート作成 ・進路体験交流会 ◆進路別ガイダンス
	C S ともに支え合うクラスを作ろう ・手帳システム活用指導 ・アサーショントレーニング ・クラス目標を立てる ・2年次目標設定 ・個別面談	PPFを充実させよう ・エゴグラム・交流分析 ・心の地図を描いてみよう ・自分の長所を伸ばすために ・進路諸検査、Q-U ・個別面談 ※命を考えるWeek(デートDV)	自己分析を進めよう ・求人票から見える欲しい人材 ・人生で大切なもの ・私の興味・能力を考える ・キャッチコピー作成プロジェクト ・個別面談	自己PR道場～自分をPR ・面接官体験～進路先は何を見ている？ ・上級生進路体験交流会 ・私のパンフレット作成プロジェクト ・履歴書作成体験 ・個別面談
3学年	C G 準備を整える ・手帳システム活用指導 ・面接の極意 ・面接マニュアルプロジェクト ・進路別ガイダンス ・個別面談	進路実現に向けて ・面接必勝ワークブック ・面接練習会 ・小論文/作文指導 ・個別面談 ※命を考えるWeek(交通安全)	ひとり立ちするために… ・知っておきたい職場のマナー ・ひとり暮らしを考える ・悪質商法とたたかう ・消費者問題講話 ・個別面談	

※「命を考えるWeek」には命をテーマとした講演会を開催するほか、各教科でも命の関連する素材を扱う授業を実施 ◆=進路指導部の行事

いていたという。そこで幅広い学力層に対応するために同校が考案したのは、学習メニューを変えた「3モード学習」だ(図1)。対象は国語、数学、英語の主要3教科。中学までの復習をじっくり行う「ベーシック」から、早期に高校の学習内容に入る「アドバンス」まで3つのモードがあり、それぞれ

れ少数授業が行われる。生徒は入学直後、各自の学力や進路希望に応じていくつかのモードを選択する。習熟度別授業と混同されやすいが、モードによって履修内容が変わる点に違いがある。2つめの特徴は単位制だ。そのせいで、「3モード学習」をはじめとするきめ細か

い学習指導を可能にすること、さまざまな分野を試すことで自分の適性や興味・関心の方向を探れるようにするためだ。成功経験が乏しく自信をもちにくい生徒が多い状況を踏まえ、やりたいことがある生徒に有効なシステムである総合学科の道はあえて選択しなかったという。そして、3つめの特徴にキャリア教育があげられる。バブル期までは、良い人生とされてきたモデルが通用しなくなった今、子どもたちに模範となる大人像を示せていない点を問題視。自分なりに歩いていくための生き方の例を示すキャリア教育を、単位制に先駆けて10年度からスタートさせている。同校のキャリア教育は、「将来の職業を決めさせる」というものではない。みらい委員会や教務部で学校改革を推進し、現在ガイダンス部長を務める矢橋佳之先生はこう話す。

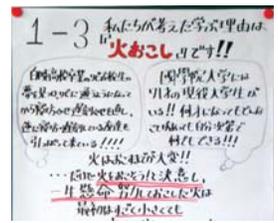
「生同じ仕事をしていられるとは限らない現代。状況が変化した時に自分で決めることのできる、基礎体力をつけさせたいと考えました」

「産社」と「総学」の2本柱のキャリア教育プログラム

キャリア教育のプログラムは、キャリアカウンセラーとしての知識や進路指導経験をもつ矢橋先生が中心となり、全国各地で視察したキャリア教育先進校の実践を参考に考案。その骨格をなしているのは、同校に入学した生徒が力をつけて社会に

★A「私たちが学ぶ理由」プロジェクト

初めて実施した11年度、従来の状況からみて全班がポスターを完成させることは難しいだろうと、各クラス2班程度の発表を予定していた。しかし、実際に実施してみると、すべての班が発表に向けて必死に活動。急ぎよ、全班の発表に変更した。「喫煙ゼロ」の時と同様、「要求すれば生徒は応えてくれる」ことを、ここでも共有できたという。



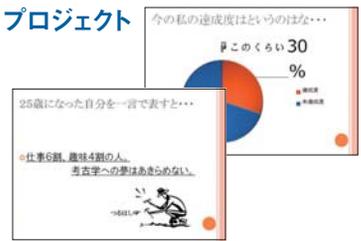
★B「ステキな会社調べ」プロジェクト

『日本ではいちばん大切にしたい会社』（坂本光司著）に掲載されている北海道の菓子製造・販売会社、株式会社柳月の「お客様のコミュニケーション促進が目的であり、お菓子の販売はそのための手段にすぎない」という経営理念について講義。働いてみたいのはどんな会社かを考える機会とした。



★C「マイ・ライフプラン」プロジェクト

各自が思い描くライフプランには、職業名をあげなくてもよい。考古学に興味があるが家庭の事情で進学が困難な生徒は、「仕事6割、趣味4割」という将来のイメージを発表した。発表会を見学した地域住民からは、「生徒が輝いてみえた。生徒たちの良さを引き出している」との感想が寄せられた。



★D「白1グランプリ」プロジェクト

生徒が地元になんだ焼きそばメニューを考案。札幌市白石区のキャラクター「しろっぴー」（雪だるま）や区花のバラになんだユニークなアイデアが多数あがった。今年度は7月に開催される学校祭にて、昨年度と今年度の優勝チームによる販売対決を実施した。



★E 異業種交流体験

自分の名前と好きなことを書いた模擬名刺を1人10枚ずつ用意。「〇〇が好きな△△です」とあいさつ、握手して交流する。人間関係を広げるため、ポイント数を競うゲームの必要要素を導入し、相手が異性なら1ポイント、つまらなそうにしていない人なら2ポイントが加算されるなど設定した。



★F 手帳システム

1週間分1見開きのフォーマット。年に1回、手帳コンテストを開催。しっかり活用している生徒を称えることで、その生徒の自尊心を高めるとともに、周囲への波及を図っている。良い活用例、成果をあげた例が出てきたことで、今年度は昨年度より生徒への定着がうかがえる。



出るまで、高校3年間の成長シナリオだ。前・後期をさらに分割して1年間を4つのQ(クォーター)とし、Qごとの成長のステップを設定した、2本の柱をもつプログラムとなっている(図2)。

2本柱の1つは、全学年の「産業社会と人間」(1単位)で取り組む「キャリア・ガイダンス」(以下CG)。将来や社会など、外に目を開く活動が中心のプログラムだ。プレゼンテーションを多く盛り込み、インターシッピングなど社会との接点を生かして将来について考えさせている。

もう1つは、1・2年次「総合的な学習の時間」の1単位分で行われている「キャリア・サポート」(以下CS)。こちらは主に自分の内面に迫る活動で、生活習慣の安

定や自己管理、コミュニケーションなどがテーマとなっている。

プログラムの企画、教材作成はガイダンス部が行い、授業は基本的にクラス単位で担任や副担任が実施。効果的に実践できるように、現場の裁量で工夫したり、担任団からの提案を取り入れて軌道修正しながら柔軟に運営されている。

「私たちが学ぶ理由とは?」からスタートするCG

CGの流れを大まかに追ってみよう。1年次は、1年間を通して多数の大人の言葉や生き方、実際の会社というモデルに触れながら、自分自身について考えてゆく。

グループでのリサーチやディスカッション、発表を多く取り入れて同級生の考え方も刺激を受ける仕掛けになっている。

第1Qの最初の大きな活動は、入学直後の宿泊研修で行う「私たちが学ぶ理由」プロジェクトだ(★A)。上級学校や企業で学ぶことの目的や内容をインタビュール、グループごとに自分たちが学ぶ理由を1つの単語に表現するポスターセッションを行う。高校3年間を何のために、どう過ごしてゆくのかを考えることがキャリアを考える第1歩となるのだ。

第2Qの「働くこととあわせの関係」では、北海道出身のシエフ三國清三氏のキャリアなどを例に、適職をみつけるのではなく、適職にしていけるモデルを紹介。「ス

テキな会社調べ」(★B)と合わせ、仕事への向き合い方、働くとはどういうことかを考える。

第4Qのメインは「マイ・ライフプラン」(★C)だ。ここで重視しているのは、職業名をあげることではなく、「10年後、自分はどういう大人になりたいか」。そうなるには今は何が足りないのか、高校生活でどう補っていくのかを考える。

2年次になると、社会とのかかわりを体験する、より実践的な活動が増える。例えば、第1Qは、商品企画を体験する「白1グランプリ」(★D)。地域に製麺・製粉の有名企業が多いことから、焼きそばのメニューを班別に研究・開発し、そのアイデアを競う発表会も開催。企画の楽しさを味わう。第2・3Qは、株式の模擬売買から経済や社会の見方を学ぶ「株式売買ゲーム」や、一人暮らし資金をシミュレーションする「Money Connection」など、ゲームを通じて社会を知る活動もある。

第3QはCGと関連つけた進路行事として、全員を対象に2日間のインターシッピングを実施。2年次担任の玉木雅代先生は、単独行事ではなく3年間のプログラムとリンクしてインターシッピングがある意義を感じている。

「価値観は一朝一夕に形成されるのではなく、日々積み重なっていくもの。1年次からのさまざまな講話や疑似経験があるからこそ、実際の職場での気づきが多く、失敗しても何かを学びとることができるようではないでしょうか(玉木先生)



2学年担任
玉木雅代先生



ガイダンス部長
矢橋佳之先生



進路指導部長
今 幸弘先生



校長
片岡 晃先生

3年次では、卒業後の進路実現に向けた準備が多い。主に就職や推薦入試の面接対策、加えて、卒業後の一人暮らしを踏まえた生活面の注意についても学ぶ。

自己管理能力を高める 手帳システムを組み入れたCS

一方のCSでは、グループエンカウンターやピアサポート、アサーショントレーニングなど、心理的技法を用いた活動が目立つが、導入初期は学年全体で実施して不発に終わったことも。そこで、集団の発達段階に合わせて基本はクラス単位で、あらかじめ消極的な生徒への対応を教員間で共有したうえで実施している。最近では、1年次第1Qに交友関係を広げるために実施している「異業種交流体験」など、盛り上がる活動も増えてきた(★E)。

また、自己管理能力の向上を図るために昨年度から導入した手帳システムは、成果がみえ始めている(★F)。目標を明確にして行動計画を立てるコーチングの手法を参考に手帳リフィルを作成。第1QのCSにて活用方法を指導し、年間を通じて運用している。1日の終わりに行動を記録し、週末に1週間を振り返る。基本的に週1回は担任に提出し、担任はコメントを記載して返却。コミュニケーションツールとしての役割も大きく、担任のコメントが楽しみで提出している生徒も多い。

活用状況は生徒によって差があるが、手帳活用が習慣化した生徒からは、睡眠時

間が確保されて精神的に安定したり、隙間時間を自覚するようになったことで家庭学習時間が増えて成績を上げたという成果も聞かれる。

「単に起こった出来事を記入するのではなく、自分が掲げた1週間の目標に対する自分の行動を評価できると、次の行動に生かされます。最近はそのができる生徒が増えてきたと感じています」(玉木先生)

また、3年間の活動記録や成果物などを随時ファイリングして、各自ポートフォリオを作成するが、その指導もCSで行われている。手帳と同じく自分の成長を振り返り、確認できるようにしておくことで、進路決定時に役立てている。

学校史上最高の 就職内定率となる見込み

生徒が興味をもちにくい「株式売買ゲーム」や、教員の手腕に左右される心理的技法を用いた授業など、発展途上の活動もある。しかし、同校教員からは「プレゼンテーションが格段に上達した」「学校活動に前向きな生徒が増えた」など、生徒の力の伸びを実感する声が聞かれる。

また、CSで「コミュニケーションやCGでプレゼンテーションを学んだことは、他の授業方法にも影響している。

「以前はうちの生徒に話し合いができるだろうか?という心配もあり、授業に話し合いやグループ活動を取り入れられませんでした。しかし、最近ではクラスの雰囲気良

く、人前で話すことにも慣れた生徒が増えたので、自然に行えます」(玉木先生)

今年度は単位制1期生が卒業する。ポートフォリオや手帳の記録が就職や推薦入試の面接時に役立てられ、進路決定は順調に進んでいる。特に就職が好調で、13年12月時点の内定率は過去最高の数値だ。

「景気が上向いている影響もありますが、力のある生徒が増えた点も大きいですね」(進路指導部長・今幸弘先生)

キャリア教育本格導入から3年。白11グランプリを学校祭で行ったり、「命を考えるweek」(図2)のようにCG、CS以外

の授業におけるキャリア教育の試みが始まるなど、学校全体の動きとの絡みもみられるようになった。「今後は進路指導部、各教科などの連携をいっそう深めるとともに、そろそろ第2段階として成長シナリオから検証していきたい」と矢橋先生。片岡校長もそれを後押ししている。「毎年同じことをしていたらわれわれ教員が飽きてしまう。キャリア教育に限らず生徒指導、学校行事も、毎年刷新していくことが大事です。キャリア教育のプログラムとしてだいぶ整ってきましたが、来年度は1割は変化させる、そのためには2割を変えるつもりで検討していきます」

Interview



(写真右から)
ガイダンス部・3学年担任
内海靖香先生と3年次生の
島守沙也加さん、今井 幸(ゆき)さん、
桐山拓也さん

成績アップや面接突破に、CG、CSの経験が役立った

「毎日『時間がない』と思っていましたが、学校で勧められた手帳に1日の過ごし方を記録してみても、無駄な時間が多かったと気づきました。手帳を使うと時間を意識するようになり、成績も上がりました。春に社会人になったら使う手帳は、もう買ってあります。毎晩、手帳を開いて1日を振り返る習慣ができたので、先生のチェックなしでも続けていけそうです」(島守さん)

「1年次CGの『ステキな会社調べ』で、その会社が何を狙っているかといった深いところまで調べ、調べることで楽しいんだな、と気づきました。また、CGやCS、資格試験を通じて自分はコツコツやるのが好きだとわかり、就職では事務職を希望。内定をいただきました」(今井さん)

「高校でボランティア活動をして人とかかわる仕事に興味をもち、卒業後は北星学園大学社会福祉学部に進学することが決まっています。その推薦入試の面接では、手帳がとても役立ちました。手帳には生徒会長をしたときの不安、学校祭への意気込みなどを日々書いていたので、面接前に見返すことで当時の体験を具体的に語ることができたと思います」(桐山さん)